

令和 6 年北海道森づくり研究成果発表会について

企画調整部普及グループ主査（普及）阿部 哲也

道総研森林研究本部では、北海道水産林務部との共催で、令和 6 年 5 月 16 日（木）、北海道立道民活動センター「かでの 2・7」（札幌市）において、令和 6 年北海道森づくり研究成果発表会を開催しました。

今回、平成 31 年に感染拡大した新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行されたことから、5 年ぶりに対面形式での開催となりました。

本発表会は、森林整備や木材利用に関する研究成果、地域における技術普及や活動事例の紹介など、本道における森づくりや木材利用に関する知識を深め、技術の向上を図ることを目的としており、森林研究本部（林業試験場・林産試験場）からは、①森林資源の循環利用のために（林業技術）、②森林資源の循環利用のために（木材利用技術）、③森の役割と森からの恵みの 3 テーマに沿って、口頭発表 7 課題、ポスター発表 29 課題の計 36 課題の発表を行いました。

また、一般発表として、行政機関や国の研究機関より、口頭発表 3 課題、ポスター発表を 6 課題の計 9 課題の発表が行われました。

口頭発表会場のかでのアスピックホールでは、一般発表（10:10～11:10）として、北海道が推進するスマート林業や航空レーザー測量を活用した広葉樹資源の把握に向けた取組などの紹介が行われました。道総研研究成果発表（13:00～15:30）では、道産シラカンバの高付加価値利用に向けた取組のほか、昨年、松前町と福島町で初めて確認されたカシノナガキイムシによる被害状況と今後取り組むべき被害対策などを紹介し、来場者から多くの質問が寄せられました。



口頭発表会場（かでのアスピックホール）の様子



森林研究本部の研究概要説明



口頭発表の様子

ポスター発表会場である展示ホールでは、研究内容を紹介したポスターのほか、これに関連した成果品や機材類を展示しました。

林業試験場からは、育成試験が行われたトドマツコンテナ苗の実物大パネルのほか、森林に被害を与えるエゾヤチネズミの剥製や野ねずみを捕獲する自動リセット式トラップの実物などが展示されました。

林産試験場からは、道産木材を用いた CLT や道産シラカンバを用いた LVL の試験体などが展示されました。

2 回のコアタイム (①11:10~11:50, ②15:35~16:20) では、これら展示物などを手にしながら、発表者と来場者による熱のこもった意見交換が随所で行われていました。

当日は、林業・木材産業関連企業や団体、行政機関をはじめ 300 名の方々に御来場いただきました。

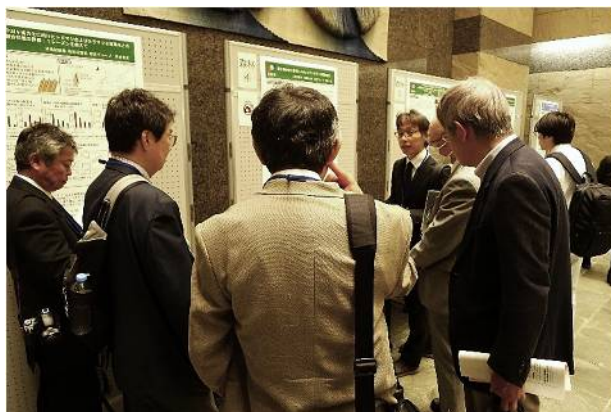
また、御来場の皆様から、多くの御質問や貴重な御意見をいただき、林業・林産業に対する関心と研究成果の実用化への期待の高さを改めて実感する発表会でした。

来年度以降は、より多くの方に御来場をいただけるよう努力いたします。

本号では、次のページより、林業試験場の当日発表の全 9 課題をポスター形式で紹介しますので、ぜひ、御一読ください。



ポスター発表会場（展示ホール）の様子



ポスター発表会場での意見交換



取材風景



閉会あいさつ（かでるアスビックホール）



取材風景